東京帝國大學法科大學

經濟論叢

第七卷　第一號

大正七年七月一日發行

論說

剩餘價格ノ成立……法學博士　河上肇
相續稅批評ノ重點(一)……法學博士　神戸正雄
扶養義務ヵ救貧籍ヵ……法學博士　財部靜治
さんぢかりずむ概論(一)……法學士　河田嗣郎
黃宗羲ノ政治經濟思想(一)……法學士　文學士　小島祐馬
經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(六)……法學博士　田島錦治
分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ(二、完)……文學士　高田保馬

時事問題

小口落禁止問題……法學博士　戸田海市
軍需工業動員法ニ就テ……法學士　櫛田民藏

雜錄

英吉利ノ豫算……法學士　河田嗣郎
南露ニ於ケル獨逸住民(二、完)……文學士　長壽吉
かあらいるノ「過去及ビ現在」……文學士　石田憲次
戰費調達問題(一)……法學士　小島昌太郎

經濟論叢　第七卷　第一號（通卷第三十七號）　大正七年七月發行

論說

剩餘價格ノ成立

（不勞所得トシテノ資本ノ利子ノ發生原因ニ關スル一考察）

河上肇

（目次）——一、問題ノ意義——二、總ベテノ企業ノ獨占的性質——三、總ベテノ企業ニ亘ル生產ノ制限——四、消費者ノ負擔ニ依リテ生ズル資本ノ利子——五、勞働者ノ負擔ニ依リテ生ズル資本ノ利子

一、問題ノ意義

題シテ剩餘價格ノ成立ト謂フ。其ノココロハ、已ニ企業內ニ於テ成立セル剩餘價値ガ、如何ニシテ市場ニ於テ一ノ剩餘價格トシテ實現セラルルニ至ルヤ、ノ消息ヲ說明セントスルニ在ル。

思フニ今日ノ經濟組織ノ下ニ於ケル吾人ノ所得ハ、之ヲ分析シテ財產所得及ビ勤勞所得ノ二種

ト爲スヲ得ベク、財產所得ハ又之ヲ分析シテ、賃料（例ヘバ地代、家賃等）及ビ資本ノ利子ノ二種ト爲スコトヲ得ベシ。而シテ本來余ノ問題トセントスル所ハ、コノ中資本ノ利子ハ如何ニシテ發生スルニ至ルヤト云フ問題ナレドモ、茲ニハ更ニ其ヲ狹クシテ、企業ニ放下サレアル資本ハ如何ニシテ利子ヲ生ムニ至ルヤト云フ問題ニ之ヲ還元セント思フ。蓋シ資本ノ利子ハ、或ハ資金ノ貸借利子（金利）ト云フ形態ヲ採ルコトモアリ、或ハ企業放資ノ利潤ト云フ形態ヲ採ルコトモアル。然ルニ資金ニ對シテ一定ノ需要アルハ、國家及ビ自治團體ガ不生產的事業ノ爲メニ起債スル場合ヲ除クノ外、主トシテ之ヲ生產營利ノ事業ニ放下センガ爲メナルガ故ニ、――（個人ハ莫大ノ資金ヲ不生產的ニ消費スル時ハ、後日之ガ元利ヲ返却スルコト能ハザルガ故ニ、個人間ノ資金貸借ハ生產的用途ノ爲メニノミ行ハルルヲ原則トス）――資金ノ貸借利子ガ如何ナル財源ヨリ支拂ハルルヤト云フ問題ハ、大體ニ於テ企業放資ノ利潤ハ如何ニシテ生ズルヤト云フコトト、所詮ハ同ジ問題ニ歸着シテ仕舞フノデアル。資金ハ之ヲ企業ニ放下スルコトニ依リテ利潤ヲ擧ゲ得ラルレバコソ、一定ノ金利ヲ支拂ウテ資金ヲ借入ルルモノアル次第ナレバ、何故企業放資ニハ常ニ一定ノ利子ヲ伴フヤト云フ問題ガ、資本利子ノ發生原因ニ關スル根本問題ナノデアル。

企業ヨリ生ズル總利潤ノ中ニハ、勤勞所得ト財產所得ノ二種ヲ包含スルヲ常トスル。茲ニ利潤中ニ包含セラルル勤勞所得ト謂フハ、企業者ガ企業經營ノ爲メニ提供セル勤勞ノ報酬デアル。サレ

バ若シ企業者ガ自ラ此等ノ勤勞ニ服スルコトナク、他人ヲ雇入レテ其者ニ之ヲ委任スル時ハ其等ノ使用人ニ對スル報酬手當トシテ、總利潤ノ一部分ハ取リ去ラルルコトト爲ル。株式會社ノ株主ノ如キハ斯カル企業者ノ一例デアル。彼等ハ企業經營ノ勞ニ服スルコト殆ドコレ無キガ故ニ、總利潤ノ一部ハ會社ノ重役ニ對スル手當賞與金トシテ支拂ハルル。企業ヨリ生ズル總利潤ノ中ヨリ、此ノ如キ勤勞所得ノ性質ヲ有スルモノヲ除キ去ル時ハ、殘ル所ノモノハ總ベテ財産所得ノ性質ヲ有スルモノナルガ、コハ復タ分ツテ二種ト爲スコトヲ得ル。一ハ財産ノ危險ニ對スル報償デアル。凡ソ人生ノ事業ハ一トシテ何等カノ危險ヲ有セザルモノナケレドモ、企業ヲ經營スルコトニ依リテ所得ヲ得ントスル者ハ、他ノ方法ニ依リテ所得ヲ得ル者ヨリモ、更ニ特種ノ危險ヲ冒シツツアル者デアル。例ヘバ、資金ヲ他人ニ貸付ケテ利子ヲ取ル場合ニ於テモ、若シ債務者ガ其責任ヲ履行セザル時ハ、元利共ニ之ヲ失フノ危險アレドモ、然ラザル限リ、之ガ報酬ハ豫メ契約ニ依リテ前定セラレテアル。然ルニ企業者ハ、取引先ノ債務不履行等ノ爲メニ、之ト同ジ種類ノ危險ヲ負擔スルノ外、ソノ生産物ニ對スル世間一般ノ需要如何ニ依リテ、甚シキ損失ヲ蒙ルノ危險ヲ冒シツツアル者デアル。而シテ契約ノ不履行ニ本ク損害ハ、或程度マデハ法律上ノ制裁ニ訴フルコトニ依リテ之ヲ防グヿヲ得ト雖モ、自己ノ生産セル商品ヲ世人一般ガ豫期ノ如クニ歡迎セザレバトテ、世人ノ需要ハ法律ニ訴ヘテ之ヲ强制シ得ル性質ノモノニ非ズ。斯カル意味ニ於テ、企業者ハ其財

產ニ對シ特種ノ危險ヲ負擔シツツアリト謂フベキモノナルガ、今此ノ如キ特種ノ危險ニ對シテ相當ノ報償アルベキハ自然ノ傾向ニシテ、ソレガ卽チ謂フ所ノ財產ノ危險ニ對スル報償ナルモノデアル。具體的ニ言ハバ、總利潤中各種ノ積立金トシテ取去ラルル部分ガ、大體之ニ當ル。而シテ企業ヨリ生ズル總利潤ノ中ヨリ、既ニ企業經營ノ勤勞ニ對スル報酬ヲ引キ去リ、更ニ財產ノ危險ニ對スル報償ヲ引キ去ル時ハ、殘ル所ノモノハ、財產所得ノ第二種ニ屬スルモノニテ、其ガ卽チ企業ニ放下サレアル資金ニ對スル利子デアル。通常此等ノ資金ハ、半バハ企業者ノ所有ニ屬シ半バハ他人ヨリ借入レタルモノナルガ、コノ中他人ヨリ借入レタル資金ニ對シテハ固ヨリ一定ノ利子ヲ支拂ハザルベカラズ。又自己ノ所有セル資金ハ、自ラ之ヲ企業ニ放下セズシテ他人ニ貸付クル時ハ、安全ニ一定ノ利子ヲ得ベキ性質ノモノナルガ故ニ、之ニ對シテモ亦、他人ニ之ヲ貸付ケタル場合ト同樣ニ、一定ノ利子ヲ生ゼザルベカラザル筈デアル。――（此關係ヲ誤解シテ、資金ハ之ヲ他人ニ貸付クルコトニ依リテ利子ヲ生ズルガ故ニ、其原因ヨリシテ、之ヲ企業ニ放下シタル場合モ一定ノ利子ヲ生ズルコトト爲ルト思フベカラズ。資金ハ之ヲ企業ニ放下スルコトニ依リ一定ノ利子ヲ生ゼシメ得ベキガ故ニ、利子ヲ支拂ヒテ之ヲ借入ルル者ガ在ルノデアル。）――此ノ如ク企業ニ放下サレアル資金ニハ一定ノ利子ヲ生ズルヲ原則トスルモノナルガ故ニ、若シ企業者間ニ自由競爭行ハレ居ルナラバ、各企業者ハ原則トシテ其放下資本ノ大小ニ應ジ常ニ同率ノ利子ヲ得ルノ傾向ヲ有スルモノデアル。而シテ吾人ガ茲ニ問題トスル所ハ、企業

ニ放下サレアル資本ハ如何ニシテ此ノ如キ利子ヲ生ムニ至ル乎、ト云フ問題ニ外ナラヌ。

(註) にこるそんニ從ヘバ、資本ノ利子ハ profit-interest ト loan-interest トニ分タル。而シテ profit-interest ハ企業ノ總利潤ノ中 pure interest ニ相當スルモノニテ、即チソハ interest on capital in which there is practically no risk and no trouble of management, although the interest is, so to speak, produced in the business デアル。(1) 而シテ余ガ茲ニ問題トスルハ、コノ profit-interst ノコトデアル。更ニはえむ・ばるるくニ從ヘバ、余ノ問題トスル所ハ氏ノ所謂 Kapitalgewinn der Unternehmer 又ハ "ursprüngliche Kapitalzins" oder "profit," wie ihn die einen, "der Mehrwerth," wie ihn die anderen nennen デアル。(2)

既ニ述ベシ如ク總ベテノ企業ノ總利潤ノ中ニハ、其企業ニ放下サレアル資本ノ利子ヲ包含スルモノデアル。故ニ此等ノ企業ニ依リテ供給セラルル貨物ノ價格ニハ、之ガ生産販賣ニ必要ナル諸般ノ經費ノ外ニ、更ニ資本ノ利子ヲ包含スルモノデアル。此點ニ就キ、試ニみるノ『經濟原論』ヲ見ルニ、其價格篇ニハ總ベテノ貨物ヲ三種類ニ分チ、其中自由ニ之ガ生産ヲ增加シ得ル種類ノ貨物ニ就キ、之ガ價格ト生産費トノ關係ヲバ、次ノ如クニ説明シテアル。(3)

When the production of a commodity is the effect of labour and expenditure,.....there is a minimum value which is the essential condition of its being permanently produced. The value at any particular time is the result of supply and demand; and is always that which is necessary to create a market for the exising supply. But unless that value is sufficient to repay the Cost of Production, and to afford, besides, the ordinary expectation of profit, the commodity will not continue to be produced..... The cost of production, together with the ordinary profit, may, therefore be called the *necessary* price or value, of all things made by labour and capital. ..... As

(1) Nicholson, Banker's Money, 1902, pp. 45, 46.
(2) Böhm-Bawerk, Positive Theorie des Kapitales, 1912, S. 502.
(3) Mill, Principles of Political Economy, Book III, Chapter III. § 1.

a general rule, then, things tend to exchange for one another at such values as will enable each producer to be repaid the cost of production with the ordinary profit; in other words, such as will give to all producers the same rate of profit on their outlay.

（右大意）貨物ノ生產ガ勞働及ビ費用ヲ投ズルコトニ依リテ行ハレツツアル場合ニハ、……其物ガ引續キ生產サルル爲メノ缺クベカラザル條件トシテ、其物ノ價格ハ必ズ或限度以上ニ決定サレ居ルコトヲ要スル。勿論或特定ノ時ニ於ケル其物ノ價値ハ需要ト供給ノ關係ニ依リテ定マルモノニテ、卽チ現存セル供給額ガ凡テ賣リ盡サルベキ程度ニ何時モ決定サレルノデアル。乍併、其價値ガ生產費及ビ之ニ加フルニ通常ノ利潤ヲ以テシタル額ヲ償フニ足ラズンバ、其貨物ハ引續キ生產サレヌデ有ラウ。……ソレ故、生產費ニ加フルニ通常ノ利潤ヲ以テシタルモノハ、勞働及ビ資本ニ依リテ作リ出サルル凡テノ物ノ必要價格又ハ必要價値ト稱スベキデアル。……之ニ依リテ見レバ、物ノ互ニ交換サルル價値ハ、各生產費ニ通常ノ利潤ヲ以テシタルモノヲ償フニ足ラシムル程度、換言スレバ、凡テノ生產者ヲシテ彼等ノ出資ニ對シ同率ノ利潤ヲ得セシムル程度ニ定マルノ傾向ヲ有スト云フコトヲ以テ、一般ノ法則ト看做スベキデアル。

而シテ此ノ如キ說明ハ、今モ尙多數學者ノ採用シツツアル所デアル。余ハ其一例トシテ茲ニハ山崎博士ノ近業『經濟原論』ノ一節ヲ引用スルニ止ムベシ。博士ハ曰ク(4)

此種類ニ屬スル財貨ノ價格（生產費ヲ增加セズシテ數量ヲ增加シ得ベキ財貨ノ價格）ハ、常ニ其生產費ニ等シカラントスルノ傾向ヲ有スルモノニシテ、茲ニ生產費ト稱スルハ、一ノ財貨ヲ生產シテ之ヲ市場ニ出タス迄ニ要スル諸般ノ經費ト普通ノ利潤トヲ合計セルモノヲ謂フ。此種ノ財貨ノ價格ニシテ生產費ニ等シキトキハ之ヲ自然價格ト稱ス。而シテ此種ノ財貨ノ價格ハ、需要供給ノ關係ニ依リ自然價格ヨリ或ハ高ク或ハ低ク常ニ變動スルヲ免レズト雖モ、常ニ自然價格卽チ生產費ニ等シカラントスルモノトス。若シ一旦其價格ニシテ生產費ヨリモ大ナリトセンカ、生產者ハ資本及ビ勞働ヲ增加シテ供給ノ增加ヲ來タスベク、之ニ反シテ財貨ノ價格其生產費以下ニ降ルニ於テハ、生產者中損失ニ堪エズシテ、生產額ヲ減ジ若クハ其

(4)『經濟原論』大正六年發行一二頁

生産ヲ停止スル者ヲ生ゼン。然ラバ則チ供給ノ減少ヲ來タシテ、價格再ビ上騰スルニ至ラン。此ノ如クニシテ常ニ高低上下スルコトアルヲ免レズト雖モ、價格ノ歸着セントスル點ハ、其生産費卽チ自然價格ニ在リトス。

今余ガ本論ニ於テ問題トスル所ハ、以上ノ場合ニ於テ、何故貨物ノ價格ハ、みるノ用語ニ從ヘバ『生産費』以上ニ定マリ、山崎博士ノ用語ニ從ヘバ『其財貨ヲ生産シテ之ヲ市場ニ出ダス迄ニ要スル諸般ノ經費』以上ニ定マルコトヲ原則トスル乎、ト云フニ在ル。若シ又吾人ニシテ、みるノ所謂生産費相當ノ價格、又ハ山崎博士ノ所謂之ガ生産及ビ販賣ニ要スル諸般ノ經費ヲ償フダケノ價格ヲ以テ假ニ必要價格ト名ケ、又其必要價格以上ニ超過スル部分ノ價格ヲ以テ假ニ剩餘價格ト名ケンカ、此等ノ貨物ハ皆必要價格以上ノ價格ヲ有シ、從ツテ其價格ノ一部ニ剩餘價格ヲ包含スルヲ原則トスル次第ニテ、且又、此ノ如ク企業者ガ其生産物ヲバ必要價格以上ニ賣リ得ルコトハみるノ言葉ニ從ヘバ、嘸テ彼等ヲシテ『彼等ノ出資ニ對シ同率ノ利潤』ヲ得セシムル所以ニシテ、又余ノ用語ニ從ヘバ、此ノ如クニシテ剩餘價格ノ成立ヲ見ルコトハ、凡テノ企業者ヲシテ其放下資本ノ大小ニ比例スル所ノ一定率ノ利子ヲ得セシムル所以ナルガ、今此方面ヨリ重チテ余ノ問題トスル所ヲ言表サバ、何ガ故ニ企業ニハ此ノ如ク其放下資本ニ比例スル所ノ利子ヲ生ジ得ルニ至ルヤト云フコトニテ、更ニ換言スレバ、畢竟剩餘價格成立ノ原因如何ト云フコトニ外ナラヌ。

上ニ引用セシ如ク、みるト山崎博士トニテハ、生産費ナル用語ノ意義ヲ異ニスレドモ、以下余

ハ便宜ノ爲メ大體みるノ用例ニ從ツテ此語ヲ用ヒ、且其中ニハ企業者ノ勤勞ニ對スル報酬幷ニ其財產ノ危險ニ對スル報償ヲ包含スルモノトシテ、論ヲ進ムルデアラウ。

扨テみるノ用語ニ從ヘバ、貨物ノ價格ハ、――常ニ其生產費以上ニ相當スルノ傾向アルヲ原則トスト云フノデアルガ、元ト此ノ如キ現象ハ、獨占貨物ノ場合ニ在ツテハ、何ノ不思議モ無キコトデアル。蓋シ獨占貨物ガ遙ニ生產費以上ノ價格ニテ賣買セラルルハ、獨占業者ガ自己ノ利益ヲ最大ナラシムルヤウ、獨占貨物ノ供給ヲ自由ニ伸縮シ得ルカラデアル。獨占貨物ト雖モ、其價格ハ、市場ニ於ケル需要供給ノ關係ニ依リテ定マルニ過ギザルガ、此中、世人ノ需要ソノモノヲ直接ニ左右スルコトハ、如何ナル企業者ト雖モ爲シ得ザル所デアル。只獨占業者ハ自由ニソノ獨占貨物ノ供給ヲ左右シ得ルガ故ニ、常ニ自己ノ利益ヲ最大ナラシムルコトヲ標準トシテ供給ヲ制限シ、之ニ依リテ或程度ニ其價格ヲ維持シ、依ツテ以テ生產費以上遙ニ餘分ノ利潤ヲ擧ゲ得ルノデアル。然ルニ今吾人ガ茲ニ問題トスル所ハ、此ノ如キ獨占貨物ノ價格ガ何故生產費以上ニ決定セラルルカノ問題ニ非ズシテ、一定ノ勞費ヲ投ゼバ自由ニ其生產ヲ增加シ得ラルル種類ノ貨物ガ、自由競爭ノ行ハルル場合ニ於テモ、何ガ故ニ生產費以上ノ價格ヲ有スルヲ原則トスルカト云フコトデアル。

二、總ベテノ企業ノ獨占的性質

余ノ見ル所ニ依レバ、所謂自由競爭ノ行ハレツツアリト稱セラルル場合（又ハ爾カ假定セラルル場合）ニ在リテモ、其實、謂フ所ノ競爭ハ、只企業者間ニ行ハルルニ過ギズシテ、決シテ社會ノ全員ヲ包括スル所ノモノニ非ズ。換言スレバ、ソハまーしゃるノ所謂企業ノ自由アルニ止マリ、[5] 決シテ完全ナル自由競爭（free competition）ト目スベキモノニ非ズ。蓋シ今日ノ社會ニ在リテハ、如何ナル種類、如何ナル規模ノ事業ヲ經營スルニモ、必ズ一定ノ資本ヲ必要トスルモノナルガ、斯カル資本ハ社會ノ總ベテノ人ガ均一ニ所有シ又ハ均一ニ利用シ得ルモノニ非ズ。殊ニ吾人ガ茲ニ主トシテ問題トシツツアル所ノ自由ニ複生產シ得ベキ種類ノ貨物——工場生產物ハ其ノ模型的ナルモノ也、或ハ之ヲ資本家的商品ト稱スルモ可——ヲ生產スルノ企業ニ在リテハ、之ヲ大規模ニ經營スルコト總ジテ有利ナルガ故ニ、此種ノ企業ノ創設及ビ經營ニハ、通常多額ノ資本ヲ必要トスルモノナルガ、斯カル多額ノ資本ハ、固ヨリ社會ノ各員ガ平等ニ所有シ又ハ平等ニ利用シ得ル所ニ非ズ。サレバ企業ノ創設及ビ經營ハ、企業ノ全體ニ亘リ、殊ニ企業ノ規模ガ大ナルコトヲ必要トスレバスルホド、——而シテ今日ノ時代ハ斯カル大規模ノ企業ノ支配シツツアル時代ナリ——社會ノ各員ガ何時ニテモ自由ニ試ミ得ルガ如キ性質ノモノニ非ズシテ、寧ロ少數ナル社會一部ノ人

(5) "Freedom of Industry and Enterprise"——Marshall, Principles of Economics, p. 10.

人ノ特權ニ屬スルモノデアル。此意味ニ於テ、殆ド總ベテノ企業ハ、全體トシテ、今ヤ一ノ獨占事業ニ屬シツツアリト言ヒ得ラルル。（今日ト雖モ、極メテ小規模ノ企業ナラバ、何人モ自由ニ之ヲ企テ得ベケレドモ、斯カル非實アルガ爲メニ、余ガ言ヲ否認セントスル者ハ、社會ノ一部ニ猶ホ自足經濟ノ遺物アルノ故ヲ以テ、今日ノ經濟組織ヲ營利主義ノ組織ト看做スニ反對スルト等シク、徒ニ言葉尻ヲ捉ヘテ大局ノ論ヲ妨グル者、今ヨノ小篇ニ於テ一々應酬シ得ル限リニ非ズ。）故ニ企業者相互ノ間ニハ、假ヒ總ベテノ企業者ヲ通ジテ如何ニ完全ナル自由競爭行ハレ居ルトスルモ、ソハ單ニ企業ノ自由アルニ止マリ、企業ソノモノハ全體トシテ一ノ獨占業ニ屬スルヲ以テ、此關係ヨリシテ、企業ノ全體ニ亘リ一種ノ獨占利益ヲ生ズルニ至ルモノニテ、余ノ見ル所ニ依レバ、ソレガ軈テ凡テノ企業ニ利子ノ生マルル所以デアル。而シテ此種ノ獨占ハ、企業全體ニ亘ルモノナルガ故ニ、之ヨリ生ズル獨占利益ハ、企業者間ニ自由競爭行ハレ居ル限リ、凡テノ企業ノ均霑シ得ル所ニシテ、卽チ如何ナル種類ノ企業者モ皆、ソノ放資額ノ大小ニ正比例スル所ノ利子ヲ得ベキ筈デアル。乍併、實際ニ於テハ、全體ノ企業中、或者ハ法制上ノ原因ニ依リ（例ヘバ專賣特許權ヲ有スル場合ノ如シ）、又或者ハ自然的ノ事情（例ヘバ南阿ニ於ケル金剛石ノ礦山ガ一會社ノ支配ニ屬シツツアル場合ノ如シ）ニ依リ、所謂『絕對的獨占』ヲ有シツツアル。又此ノ如キ法律上乃至自然的ノ制限ナキ場合ニ於テモ、所謂『產業的獨占』[6]ハ、多少ノ程度ニ於テ、殆ド凡テノ重要產業ニ亘リテ行ハレツツアル。既ニ述ベシ如ク或種ノ事業ハ成ルベク之ヲ大規模ニ經營スルノ必要アリテ、

(6) "Industrial Monopoly" (Taussig, Principles of Economics, vol. II. p. 107.) ―又 Oppenheimer ガ „Das privatrechtl. Klassenmonopole des Gewalteigentums" ト謂ヘルモノニ略ボ相當ス。(Theorie der reinen und politischen Oekonomie, 1911, S. 254.)

之ガ經營ニハ巨額ノ資本ヲ要スレドモ、斯カル巨額ノ資本ヲ所有シ又ハ利用シ得ル者ハ、企業者中更ニ其一部ノ者ニ限ラルルガ故ニ、其關係ヨリシテ、多クノ企業ニ關シ所謂『產業的獨占』ナルモノガ行ハルルニ至ルノデアル。何レニセヨ、全體ノ企業ノ中ニハ、特種ノ獨占的性質ヲ有シ、凡テノ企業者ニ向ツテ自由ニ解放サレ居ラザルモノガ少クナイ。而シテ此等ノ獨占業者ハ、其ノ特種ノ獨占的地位ヲ利用スルコトニ依リ、他ノ企業者ニ比シ更ニ一層ノ獨占的利益ヲ獲得シツツアル。故ニ、如何ナル種類、如何ナル規模ノ企業ニ就テモ、企業者全體ニ亘リ十分ナル自由競爭行ハレ居ルト假定スレバコソ、凡テノ企業者ハ其放下資本ノ大小ニ正比例シテ皆同率ノ利子ヲ獲得シ得ル筈トナレドモ、實際ニ於テハ、或企業(一般的ニハ大企業)ノ放資ニ對スル利廻ハ、遙ニ金融市場ニ於ケル貸借利子ノ步合ニ超過スルコトト爲リ、又或種ノ企業(一般的ニハ小企業)ニ在リテハ、其放下資本ニ對スル利子ヲバ普通金利ノ步合ニテ見積ル時ハ、企業ノ成績ハ計算上却テ損失ト爲リツツアル者モ少クナイ。(現時ニ於ケル我國農家ノ經濟ハ、豐作ノ場合ニ非ザル限リ、多クハ皆然ルニ似タリ)。此ノ如クニシテ、今日ノ實際ニ於テハ、凡テノ企業ノ利潤率ハ決シテ一致平均スルモノニ非ザレドモ、其事ハ吾人ノ今問題トスル所デハ無イ。吾人ノ茲ニ問題トスル所ハ、何故ニ或企業者ハ他ノ企業者ニ比シテ餘分ノ利潤ヲ得ツツアル乎ニ非ズシテ、縱ヒ自由競爭行ハルト假定スルモ、ソノ自由競爭ナルモノハ只總ベテノ企業者ノ利潤率ヲ一致平均セシムルノ作用ヲ爲スニ止マリ、カ

クテ總ベテノ企業者ハ其放下資本ノ大小ニ正比例スル所ノ利子ヲ獲得セズンバ已マザルハ、何故ナル乎ノ問題デアル。而シテ余ハ則チ之ニ向ツテ、ソハ總ベテノ企業ガ全體トシテ元ト一ノ獨占業ニ屬シ、企業ノ創設及ビ經營ニ關シテハ初メヨリ完全ナル自由競爭行ハレ居ラザルガ爲メナリ、ト答ヘントスル者デアル。

併シ企業ノ經營ニハ、一定ノ資本ヲ要スルト共ニ、又必ズ特種ノ能力ヲ要スルモノデアル。而シテ此種ノ能力ハ、總ベテノ人ノ共通ニ具備スル所ニ非ズシテ、亦社會一部ノ人ノ獨占ニ屬スル。然ルニ企業ノ獨占的性質ニ本ク利益ガ、獨リ資本ノ提供者ニ歸シテ、遂ニ企業勤勞ノ提供者ニ歸スル能ハザルハ、何故デアル乎。

其理由ハ他ナシ。企業經營ノ能力ハ假ヒ資本家以外ノ者之ヲ具備スルコトアリトスルモ、企業經營ノ資力ハ只資本家ノミ之ヲ所有スルガ故ニ、其關係ヨリシテ企業ソノモノノ獨占ハ、遂ニ資本家ニ依ツテ專占セラルルヲ免レザルガ爲メデアル。詳言スレバ、資本家ニシテ若シ自ラ企業經營ノ能力ヲ有セバ、自己ノ能力ニ依リテ自己ノ資力ヲ運用シ、何時ニテモ資本家自身ガ同時ニ企業家ト爲ルコトヲ得ル。又假ヒ資本家ニシテ自ラ企業經營ノ能力ヲ有セズトスルモ、彼ハ自己ノ資力ヲ以テ企業經營ノ能力ヲ有スル者ヲ雇入レ、之ヲシテ企業的勤勞ヲ擔任セシムルコトニ依リ、自身ハ尙ホ依然トシテ企業主ノ地位ヲ維持スルコトヲ得ル。殊ニ株式會社ノ組織行ハルルニ

至リテヨリ、資本家ハ殆ド全ク企業經營ノ勤勞ニ服スルコト無クシテ、而カモ優ニ企業者タルノ地位ヲ留保シ得ルニ至リシヲ以テ、今日ニテハ資本家ニシテ企業者タリ得ザル者ハ全ク無イ。然ルニ企業經營ノ能力ヲ具フルノミニテ、之ニ相應スルノ資力ヲ具ヘ居ラザル者ハ、今日ノ社會ニ於テ到底企業者タルコトヲ得ズ。殊ニ企業經營ノ大才ヲ具フル者ハ其能ヲ發揮スルガ爲メ大資本ヲ運用スル大規模ノ企業ヲ經營スルノ必要アレドモ、自ラ斯カル大資本ヲ所有シ居ラザル限リ、彼ハ他ノ大資本家ニ雇ハレテ其使用人タラザルヲ得ザル者デアル。コノ企業ノ獨占的性質ヨリ生ズル利益ガ、殆ド全ク資本家ニ歸屬スル所以デアル。

思フニ人生ニ於ケル相續ノ問題ハ、之ヲ分ツテ二種ト爲シ得ルデ有ラウ。一ハ血統上ニ於ケル能力ノ遺傳ニシテ、一ハ法律上ニ於ケル財產ノ相續デアル。二者共ニ獨占的性質ヲ有スルヲ免レザレドモ、コノ中遺傳ニ本ク天分ノ相違ハ、相續ニ本ク財產ノ差異ホドニ甚シキモノデハ無イ。嘗テあだむ・すみすハ『哲學者ト門番ト云フガ如キ甚シキ能力ノ差異モ、必ズシモ天分ノミヨリ生ズルニ非ズシテ、習慣、風習、教育ガ之ニ劣ラザル原因ト爲リツツアル』ト述ベタリシガ、此ノ如キ見解ノ當否ハ兎モアレ、假ヒ天分ノ差ニ加フルニ習慣、風習、教育ノ差ヲ以テスルモ、人ノ能力ノ相違ハ決シテ其財產ノ差異ホドニ甚シキモノデハ無イ。故ニ使用人ニ向ツテ最モ高キ報酬ヲ支拂ヒツツアリト稱セラルル米國ニ於テモ、大企業ノ重役ノ受クル所ノ勤勞所得ハ、年五萬弗

乃至十萬弗ニ過ギヌ。サレバ大企業者ガ巨萬ノ所得ヲ得ツツアルハ、假ヒ其企業主ガ同時ニ企業的勤勞ニ服シツツアル場合ト雖モ、――此事ノ爲メニ眞相ヲ誤解スルノ傾向アレドモ、實際ニ於テハ――其勤勞ニ對スル報酬ハ實ニ其一小部分ヲ成スニ過ギズシテ、其大部分ハ彼ノ所有ニ係ル資本ニ對スル利子ニシテ、卽チ Nichtsarbeiter（不勞者）トシテノ所得ニ外ナラヌノデアル。資本ノ所有ニ伴フ企業獨占ノ利益モ亦大ナリト謂フベキデアル。

然ラバ斯カル莫大ナル利益ハ、企業ノ獨占的性質ヲ如何ニ利用スルコトニ依リテ生ズル乎。コレ余ガ進ンデ更ニ研究セントスル所デアル。

三、總ベテノ企業ニ亘ル生產ノ制限

既ニ述ベタル如ク獨占ニ特殊ノ利益ノ伴フハ、獨占者ガ自己ノ利益ヲ最大ナラシムルヤウ、獨占貨物ノ供給ヲ制限シ得ルカラデアル。而シテ今、一般企業者ガ其生產物ヲバ生產費以上ノ價格ヲ以テ賣却スルコトニ依リ、ソノ放下資本ニ對シ常ニ一定ノ利子ヲ得ツツアル所以モ亦、余ノ見ル所ニ依レバ、其趣全ク之ト同ジコトニテ、卽チ今日ノ經濟組織ノ下ニ於テハ、企業全體ヲ通ジテ一種ノ獨占行ハレ、從ツテ又、企業全般ニ亘リテ一種ノ供給制限――生產制限――ガ行ハレツツアル爲メデアル。

然ラバ、謂フ所ノ企業全般ニ亘ル生産制限ハ、果シテ如何ニシテ行ハレツツアル乎。此問題ニ答ヘンガ爲メニハ、吾人ハ一應 law of diminishing returns（普通ニ『報酬遞減ノ法則』又ハ『收穫(收益)遞減ノ法則』ナドト稱ス、余ハ假ニ『生産力遞減ノ法則』ト謂フ）ノ性質及ビ作用ヲ明瞭ニスル必要アレドモ、余ハ嘗テ本誌ニ前後二篇ノ拙稿ヲ公ニシ、(7) 既ニ之ニ關スル卑見ヲ略述シ置キタルガ故ニ、茲ニハ之ヲ繰リ返サザル可シ。只議論ヲ進ムルガ爲メ、姑ク其要領ヲ摘記センニ、此法則ハ、從來土地又ハ農業ニ關シテノミ行ハルルノ法則ト看做サレ居タレドモ、余ハ爾カ信ゼズ。余ノ考フル所ニ依レバ、若シ此法則ヲ一ノ靜的法則トシテ見ンカ（歴史的ノ事實ヲ歸納シタル動的法則トシテ之ヲ見ルニ非ズ）ソハ必スシモ土地ニ限ラズ、土地以外ノ如何ナル生産財ニテモ、將タ勞働ニテモ、苟クモ一定ノ生産手段ヲ一定ノ企業ニ使用スル場合ニハ、其企業ノ農業タルト、工業タルト、將タ商業タルトヲ問ハズ、總ベテニ通ジテ一樣ニ行ハルル所ノ法則デアル。（蓋シ此法則ヲ斯ク觀察スルニ就テハ異論アランモ、今ハ一々其等ノ異論ニ答フルノ暇ヲ有タヌ。ソレ故此點ニ關スル私見ヲ否認サルル讀者ニ對シテハ、姑ク余ガ說クガ如キ法則アリトノ假定ヲ認容サレンコトヲ請求セザルヲ得ヌ。若シ此假定ヲモ認容サレズンバ、之ヨリ以上余ハ議論ヲ進メ能ハザルモノデアル）。例ヘバ一定ノ工場ニ於テ使用スル所ノ勞働者ニ就テ考フルニ、勞働者數ガ或程度以上ニ達スル時ハ、余ノ所謂生産力遞減ノ法則行ハルルニ至ルガ爲メ、其レヨリ以上ニ勞働者ヲ增加スル爲メニ生ズル總收入ノ增加額ハ、勞働者數ノ增加ニ比例的ナルヨリモ少クナルモノデアル。サレバ次第

(7) 『經濟論叢』所載『收益遞減ノ法則ノ擴張』（第一卷、四三九頁以下）、『收益ト生産費トノ關係』（第一卷、四七七頁以下）、『收益遞減法則ノ發見及ビ改造』（第二卷第一頁以下）

ニ勞働者數ヲ增加シ行ク時ハ、遂ニハ最後ニ增加シタル勞働者一人ノ爲メニ生ズル總收入ノ增加分ハ、恰モ其勞働者ニ向ツテ支拂フベキ勞賃額ト相等シキコトト爲ル。而シテ企業者ハ此點ニ達スル点ハ勞働者ヲ雇ヒ入ルト雖モ、一旦此點ニ達シタル時ハ、其レ以上ニハ勞働者ヲ雇入レザルモノデアル。ソハ斯クスルコトガ收支ノ差――從ツテ企業ヨリ生ズル利潤ノ總額――ヲ出來得ル限リ大ナラシムルニ最モ都合好キ爲メナレバ、今日ノ經濟組織ノ下ニ於テハ固ヨリ何等非難スベキコトニハ非ザレドモ、而カモ此事ハ軈テ企業者ガ生產費以上ニ餘分ノ利潤ヲ得ル所以ニシテ、同時ニ又、生產ヲバ必要以上ニ、――之ニ要スル諸般ノ經費ヲ償ヒ得ル限リ、貨物ノ生產高ハ成ルベク之ヲ增加スルノ必要アリ、トノ見解ヲ標準トセバ、ソノ標準ヨリ見テ必要以上ニ、――制限スルノ結果ト爲ルモノデアル。何故ト云フニ、最後ニ雇ヒ入レタル勞働者ニ依ツテ增加セル企業ノ收益ガ正ニ其勞働者ニ向ツテ支拂ハルル勞賃額ト相等シキ次第ナレバ、ソレヨリ前順位ニ在ル勞働者ハ皆ソノ受クル所ノ勞賃ヨリモ大ナル價額ノ生產ヲ爲シツツアル譯デアル。故ニ若シ貨物ノ供給額ヲ定ムルニ、其全體ノ生產費ヲ償フコトヲ以テ標準ト爲サンカ、猶ホ進ンデ勞働者ヲ雇ヒ入レ、更ニ其產額ヲ增加スベキ筈ナレドモ、而カモ企業者ハ前ニ述ベシガ如キ點ニ於テ勞働ノ使用ヲ中止シ、――更ニ勞働者數ヲ增加スル爲メニハ、彼等ハ必ズ勞賃率ノ下落ヲ要求ス――生產額ノ增加ヲ或程度ニ制限セントスルガ故ニ、最後ノ勞働者以外ノ勞働者ガ、最後ノ勞働者ノ生產額以上ニ生產セ

シ部分ノ價額ハ、凡テ生産費以上ノ餘分ノ利益トシテ企業者ノ手ニ歸スル譯ニテ、ソレガ卽チ放資ノ利子ト爲ツテ現ハルルノデアル。

以上ハ假ニ勞働ニ對スル放資ニ就テ述ベタレドモ、總ベテノ生産手段ニ就テ生産力遞減ノ法則行ハレ居ル限リ、ソノ關係ハ如何ナル方面ノ放資ニ就テ見ルモ、以上述ベタル所ト凡テ同ジデアル。只一言注意シ置クノ必要アルハ、生産手段ノ中、勞働ト然ラザルモノトノ間ニハ、之ガ供給ニ就テ稍々事情ヲ異ニスル點アルコトデアル。勞働ノ供給ニ就テハ後ニ至リテ猶ホ述ブベキガ、元來勞働ハ他ノ商品ト異リ、需要ノ大小ニ應ジテ自由ニ之ガ供給ヲ增減スルコト能ハザルモノナルガ故ニ、企業者ガ勞働ノ需要額ヲ決定スルニ當リ、最後ニ雇ヒ入レタル勞働者ニ依ツテ增加スル所ノ企業ノ收益ガ勞賃額ト相等シカルベキコトヲ以テ其標準ト爲スコトハ、其直接ノ結果トシテハ、只勞賃ヲシテ或程度マデ下落セシムルコトト爲ルノミニテ、勞働ノ使用量ヲ制限スルニ至ラザルモノデアル。勞働者ニシテ一定率ノ勞賃ヲ支拂ハルベキコトヲ固執スル以上、企業者ハ、其ノ最後ニ雇ヒ入レタル勞働者ニ依ツテ增加スル所ノ企業ノ收益ガ、正ニ其勞働者ニ向ツテ支拂ハルベキ勞賃額ト相等シキ點ニ於テ、勞働ノ需要ヲ制限シ其ヨリ以上ニ勞働者ヲ雇ヒ入ルルコト無カルベシト雖モ、其結果若シ職ヲ得ザル勞働者殘存スルコトト爲ランカ、一般ニ勞働者ハ其勞働ヲ賣ラズシテ生活スルコト能ハザルモノナルガ故ニ、――失業者數ガ全體ノ勞働者數ニ比シ其割合比較的ニ少キハ此

事情ニ本ク、――競爭ノ結果自ラ勞賃ノ下落ヲ來タサザルヲ得ヌノデアル。故ニ企業者ガ上ニ述ベタルガ如キ標準ヲ以テ勞働ノ需要ヲ決定スルコトハ、勞働ノ供給多キ場合ニハ、只勞賃ヲ下落セシムルノ結果ト爲ルノミニテ、現ニ供給サレ居ル勞働ヲバ使用セズシテ殘スガ如キ結果ト爲ルモノデハ無イ。然ルニ生產手段ノ中勞働以外ノ貨物（機械原料ノ類）ニ至リテハ、何レモ皆資本家的生產方法ノ下ニ於テ其レ々々一定ノ企業者ニ依リ供給サレツツアルモノナルガ故ニ、之ガ供給ハ自ラ需要ニ依リテ制限サルルヲ免レヌ。從ツテ此等ノ生產手段ヲ需要スル所ノ一定ノ企業者ガ、自己ノ企業內ニ於テ、上ニ述ベタルガ如キ標準ニ本キ、此等生產手段ニ對スル需要ヲ制御スト云フコトハ、軈テ此等ノ生產手段ヲ供給シツツアル他ノ企業ニ於ケル生產ヲモ制限スルノ結果ト爲ルモノデアル。例ヘバ織物ヲ生產シツツアル企業者ガ其生產ヲ制限スル時ハ、織物ノ原料タル絲及ビ織物機械ノ生產ヲモ制限スルノ結果ヲ齎スモノデアル。織物業者ガ生產ヲ制限シタリトテ、何人モ利用セザル紡績絲ヤ織物機械ガ道路ニ放棄サレテアルト云フ意味ニハ非ズ。又百臺ノ機械ヲ買ヒ入レテ、其中五十臺ハ常ニ之ヲ遊バシ居ルト云フ意味ニモ非ズ。需要アルガ故ニ供給アルニテ、需要ナクシテ供給アルコト無キガ、今日ノ經濟組織ノ特徵ナレバ、上ニ述ベタル如キ生產手段ニ對スル需要ノ制限ハ、固ヨリ多クノ人々ノ耳目ニ觸レズ又意識ニモ上ラザレド、而カモ是ガ爲メニ、實際ニ於テハ、享樂財ヲ生產スル企業タルト、生產財ヲ生產スル企業タルトヲ問ハズ、廣ク

企業全體ノ上ニ、企業者ノ私益ヲ唯一ノ標準トスル一種ノ生産制限ガ行ハルルニ至ルノデアル。余ハ今斯カル標準ニ本ク生産ノ制限ニ就テ、茲ニ其得失ヲ論ゼントスル者デハ無イ。余ハ只、今日ノ經濟組織ノ下ニ於テハ、此ノ如キ標準ニ依リテ生産ノ制限行ハレ居レドモ、若シ之ガ標準ヲ變更センカ、凡テノ生産財ノ供給從ツテ又享樂財ノ供給ハ、今日ヨリモ遙ニ其量ヲ增加シ得ベキモノナルコトヲ、單ニ一個ノ事實トシテ之ヲ明カニセント欲スルニ止マル。

之ヲ要スルニ、企業者ハ其資金ヲ放下シテ一定ノ生産手段ヲ購入スルニ際シ、以上述ベタルガ如キ標準ニ依リテ其需要ヲ制限スルコトニ依リ、常ニ一定ノ『生産者差益』(producer's rent) ヲ得ツツアルモノデアル。思フニ其趣ハ、一般消費者ガ其貨幣ヲ支出シテ各種ノ享樂財ヲ購買スルニ際シ、常ニ一定ノ『消費者差益』(consumer's rent) ヲ得ルト、殆ド同ジコトデアル。生産財ノ利用ニ關シテ生産力遞減ノ法則行ハルルト同ジヤウニ、享樂財ノ消費ニ關シテハ享樂遞減ノ法則行ハル。故ニ消費者ガ一定ノ享樂財ヲ購買スルニ當リテハ、最初ノ中コソ購入シ來ル所ノ財ノ效用ハ之ガ代價トシテ提供スル貨幣ノ效用ニ比シ遙ニ大ナリトスルモ、次第ニ其購入量ヲ增加シ行ク時ハ、遂ニハ其ノ購入スル所ノ享樂財ト之ガ代價トシテ提供スル所ノ貨幣ト、二者ノ效用相等シキニ至ルモノニテ、而シテ消費者ハ則チ此點ニ於テ其貨物ノ購入ヲ中止スル次第ナルガ、彼等ハ今此ノ如キ標準ニ依リテ貨物ノ購入量ヲ決定スルコトニ依リ、購入セシ貨物ノ最後ノ單位ヲ除クノ

外、他ノ總ベテノ單位ニ亘リテ各一定ノ差益ヲ得ル。サレバ物ノ購入ニ當リ一定ノ差益ヲ得ルハ、生產財ニテモ享樂財ニテモ凡テ同ジコトナレドモ、只企業者ガ生產手段ヲ購入スルコトニ依リテ生ズル生產者差益ノ場合ハ、十圓ヲ投ジテ十二圓ヲ得ルト云フガ如ク、流通ノ形式ガ貨幣——商品——貨幣（まるくすノ式ニ從ヘバ G—W—G'）トナルガ故ニ、ソノ差益ハ常ニ貨幣ニ依リテ客觀的ニ體現サルルニ反シ、消費者ガ享樂財ヲ購入スルコトニ依リテ生ズル消費者差益ノ場合ハ、十圓ヲ投ジテ酒ヲ得、酒ヲ飲ミテ一定ノ享樂ヲ感ズト云フガ如ク、價値變態ノ形式ガ貨幣——商品——心的所得（貨幣所得ニアラズ、內界ニ生ズル主觀的ノ享樂ナリ）トナルガ故ニ、一旦支出サレタル貨幣ハ消失セシママニテ、ソノ差益ハ永久ニ貨幣化サレザル點ニ於テ、二者ノ間ニ重大ナル性質上ノ差異ガ在ルノデアル。

四、消費者ノ負擔ニ依リテ生ズル資本ノ利子

然ラバ企業者ハ如何ニシテ其生產者差益ヲ貨幣ニ實現シ得ルヤト云フニ、ソハ既ニ述ベシ如ク自己ノ利益ヲ最大ナラシムルコトヲ標準トシテ其生產ヲ制限シ、此ノ如クニシテ自己ノ生產物ニ或程度ノ獨占價格ヲ有セシメ、之ヲバ其生產費以上ノ價格ニテ賣却シ得ルガ爲メデアル。サレバ企業ニ放下サレ居ル資本ニ對シ其利子ヲ負擔シツツアル者ハ、此等ノ企業ニ依リテ生產サルル所

ノ貨物ヲ購買スル最後ノ消費者ニ外ナラヌ。尤モ貨物ノ中、カノ生産財ナルモノハ、總ベテ企業者ニ依リテ購買サレツツアル。故ニ此點ヨリ言ハバ、企業者モ亦一應ハ利子ヲ支拂フ者ニテ、卽チ彼等ガ機械原料等ヲ買ヒ入ルルニ當ツテハ、彼等ハ此等ノ貨物ヲバ常ニ其生産費以上ノ價格ヲ以テ購入シツツアルモノデアル。乍併、此等ノ企業者ハ一方ニ於テハ、此ノ如ク自己ノ企業ニ必要ナル生産財ヲバ生産費以上ニ他人ヨリ買ヒ入ルルコトニ依リテ、他ノ企業者ノ資本ニ對スル利子ヲ負擔シツツアリト雖モ、之ト同時ニ、他方ニ於テハ、更ニ自己ノ生産物ヲバ生産費以上ニ他ノ企業者又ハ消費者ニ賣リ付クルコトニ依リ、一旦自己ノ負擔セシ利子ヲ他人ニ轉嫁セシムルノミナラズ、自己ノ放下資本ニ對スル利子ヲモ、併セテ此等ノ人々ニ負擔セシムルモノデアル。サレバ畢竟スルニ、資本ノ利子ヲ負擔スル者ハ、資本家的生産方法ノ下ニ生産サレタル諸種ノ享樂財ヲバ、最後ニ購入スル所ノ消費者（ultimate consumer）ナリ、ト謂ハナケレバ勿ラヌ。

以上述ブルガ如ク、資本ノ利子ヲ負擔スル者ハ、諸種ノ享樂財ヲ購買スル所ノ最後ノ消費者デアル。此意味ニ於テ、資本ノ利子ハ消費者ノ所得ノ一部ヲ取リ去ルコトニ依ツテ發生スルモノニテ、若シまるくす流ノ用語ヲ使ハバ、ソハ消費者ノ掠奪ニ依ツテ生ズト言フモ差支ナイ。然ルニコノ消費者ニハ無産者ト資本家トノ二種別アルガ、（無産者ト資本家トノ間ニハ截然タル境界ガ無イ。Trade-union, Friendly societies モ巨額ノ資本ヲ有シ、個人トシテノ勞働者モ亦貯蓄ニ依リテ一定ノ資本ヲ有ス。今一々列擧セザレド

モ、余ヲ以テ凡テ此等ノ事實ヲ看過スルモノト誤解サレズンバ幸ナリ。）コノ中、無產者ハ其所得ノ殆ド全部ヲ擧ゲテ享樂財ノ購買ニ充テツツアルニ反シ、資本家殊ニ大資本家ニ至リテハ、其所得ノ大部分ハ更ニ事業ニ放下シテ之ヲ資本化シツツアルガ故ニ、其割合ヨリ言ヘバ所得ノ一小部分ニ過ギザルモノヲ以テ自己ノ必要トスル享樂財ノ購入ニ充テツツアルモノデアル。サレバ資本ノ利子ハ、無產者ニ在リテハ、其所得ノ殆ド全部ニ亘リテ徵收サルルモノナレドモ、資本家ニ在リテハ、其所得ノ一小部分ヲ以テ之ヲ負擔スルニ過ギズ。言ヒ換フレバ、資本家ハ享樂財ノ消費者トシテノミ利子ヲ負擔スル者ニテ、企業家トシテノ資本家ソノモノハ全然利子ノ負擔外ニ立チ、却テ其企業ノ生產ノ最後ノ消費者ヨリ利子ヲ徵收シテ、之ヲ己ノ所得ト爲シツツアルモノデアル。（勞働者モ一定ノ資本ヲ有シツツアル限リ、ソノ範圍ニ於テハ資本家トシテノ利益ヲ得ツツアル。コレ恰モ資本家ガ、消費者トシテノ資格ニ於テハ、矢張リ利子ヲ負擔シツツアルト同ジコトデアル。此ノ如クニシテ凡テノ問題ガ、實際ニ於テハ程度ノ差トナリテ互ニ錯綜シツツアルガ故ニ、ソノ大局ニ着眼シ、且現象ヲ分析的ニ觀察セザレバ、事ノ眞相ヲ得ルコト甚ダ困難デアル。）

今日ノ社會ニ於テハ、如何ナル貨物モ皆資本家的生產組織ノ下ニ生產セラレツツアル。從ツテ商品ハ如何ナル種類ノモノト雖モ、其價格ノ一部ニ資本ノ利子ヲ包含セザルモノハ無イ。故ニ假ヒ他人ヨリ資金ヲ借入レ居ラザル者ト雖モ、實際ニ於テハ、何人モ皆――享樂財ヲ購入シツツアル限リ――資本家ニ向ツテ利子ヲ支拂ヒツツアルモノニテ、只其利子ガ、借金ノ利子ト云フ獨立

ノ形態ヲ採ル代リニ、貨物ノ代價ノ一部トシテ之ニ包含サレツツアルニ過ギヌ。サレバ利子禁制法ノ如キハ、資本家的生産方法ノ行ハルル限リ、事實無効ニ歸スベキモノデアル。

五、勞働者ノ負擔ニ依リテ生ズル資本ノ利子

此ノ如ク、貨物ノ價格ニハ、凡テ利子ヲ包含スルモノデアル。然ルニ今日ノ社會ニ於テ最モ廣ク賣買セラレツツアルモノニテ、而カモ原則トシテハ其價格ノ中ニ毫モ利子ヲ包含セザルモノガ只一ツアル。一般勞働者ノ勞力ガ卽チ其レデアル。然ラバ何故ニ一般勞働者ノ勞力テフ商品ノ價格ニハ利子ヲ包含セザルヤト云フニ、ソハコノ商品ニ限リ資本家的生産方法ニ依リテ生産セラレザルガ爲メデアル。既ニ述ベシ如ク、今日市場ニ於テ廣ク賣買取引セラルル商品ハ、殆ド皆資本家的生産方法ニ依リテ生産セラレツツアルモノナレドモ、獨リ人間ノ勞力ノミハ其例外ヲナセルモノニテ、其ノ最初ノ供給ハ凡テ個人的ニシテ企業的デハ無イ。（例ヘバ機械ヲ製造シ販賣スルノ會社アレドモ、人間又ハ人間ノ勞力ヲ生産シツツアル企業ハ無イ。尤モ人間ノ勞力ノ供給ナ一ノ企業トシテ營ミツツアルモノハ有ル。例ヘバ人力車營業ノ如シ。——而シテ斯カル場合ニハ、勞働者ノ外ニ企業者例ヘバ俥屋ノ親方ノ如キモノアリテ、其者ガ資本ヲ提供シ、其資本ニ對スル利子ヲ得ツツアル。——乍併、此ノ如キハ、已ニ生産サレ居ル勞力ヲバ一旦勞働者ヨリ買ヒ取リ、更ニ之ヲ他人ニ供給スルニ過ギザルモノニテ、人間ソノモノ又ハ人間ノ勞力ソノモノヲ生産スルコトハ、全ク家庭内ノ仕事ニシテ、企業ニ屬スル事柄デハ無イ。）サレバ他ノ商品ヲ生産スルニハ、必ズ一定ノ資本ヲ所有シ又ハ利用シ得ル

コトヲ要件トスレドモ、獨リ人間ノ勞力テフ商品ノミハ、有產者タルト無產者タルトヲ問ハズ、何人モ自由ニ之ヲ市場ニ提供シ得ルモノデアル。卽チ他ノ商品ニ關シテハ、所謂自由競爭ノ行ハル場合ト雖モ、其競爭ナルモノハ單ニ資本家間ニ限ラレタルモノニテ、嚴格ナル意味ニ於テハ決シテ完全ナル自由競爭ト謂フヲ得ザルモノナレドモ、獨リ普通勞働者ノ提供スル勞力ニ關シテハ、常ニ社會ノ全員ヲ包括スル所ノ完全ナル自由競爭ガ行ハレツツアルモノデアル。故ニ若シ此等勞働者ノ勞力ガ、カノ工場生產物ノ如ク、世間ノ需要ノ變動ニ應ジ自由ニ其供給ヲ伸縮シ得ルモノナラバ、其價格ハ之ガ生產費ト常ニ全然一致ヲ保チ、毫モ其中ニ利子ヲ包含セザル筈デアル。尤モ實際ニ於テハ、勞力ノ提供者トシテノ人間ハ、工場生產物ト異リ、之ガ生產ニ少カラザル時間ヲ要スルノミナラズ、ソノ生產ハ本來營利ノ目的ヲ以テ計畫的ニ行ハルルモノニ非ザルガ故ニ、其生產數ハ決シテ需要ノ變動ニ應ジテ直チニ伸縮セラレ得ルモノニ非ズ。而カモ已ニ一定ノ勞働者ニシテ存在シ居ル時ハ、此等ノ勞働者ハ其生活ヲ維持スルガ爲メニ必ズ自己ノ勞力ヲ他人ニ賣ラザルベカラザルノミナラズ、其勞力ナルモノハ之ヲ貯蓄シ置クコト能ハザルガ故ニ、何等カ人爲ノ方法ヲ以テ特ニ其供給ヲ制限スルノ策ヲ講ゼザル限リ、人間ノ勞力ニ就テハ、需要ノ變動ニ應ジテ絕エズ其供給ヲ調節シ行クコトハ困難デアル。此ノ如ク、勞力ノ賣買ニ關シテハ自由競爭行ハレツツアルト同時ニ、其生產ハ需要ノ如何ニ依リテ自由ニ之ヲ伸縮シ得ザルモノナル

ガ故ニ、勞力ノ價格ハ之ヲ一定ノ時ニ就テ言フナラバ、只其時々ノ需要供給ノ關係ニ依リテ定マルト言フノ外ナク、卽チ或場合ニハ之ガ生産費以上ニ昇リ、或場合ニハ之ガ生産費以下ニ降ルコトアルモノデアル。乍併、吾人ニシテ若シ更ニ一歩ヲ進メ、長キ期間ニ亘ツテ其大體ノ傾向ヲ觀察スルナラバ、勞力ノ價格ハ略ボ之ガ生産費相當ノ程度ニ定マルト言ハナケレバ勿ラヌ。何故ト云フニ、若シ勞賃ニシテ勞力ノ生産費——卽チ勞働者自身並ビニ其後繼者タルベキ家族ノ生活ヲ維持スル爲メノ費用——ヲ償フニ足ラザル時ハ、生活難ノ結果彼等ハ從前ヨリモ其人口ノ增加速度ヲ減少シ、カクテ市場ニ於ケル勞力ノ供給ヲ減少スルコトニ依リテ、之ガ價格ヲ騰貴セシムルニ至ルベク、之ニ反シ、若シ勞賃ニシテ勞力ノ生産費以上ニ昇ル時ハ、勞働者ハ、或ハ生活ノ程度ヲ高メ勞力ノ生産費ヲ增スルコトニ依リテ、或ハ其人口ノ增加速度ヲ高メ、勞力ノ供給ヲ增加スコトニ依リテ、之ガ價格ヲ下落セシムルニ至ルベク、此ノ如クニシテ、勞賃ハソノ時々ノ需要供給ノ關係ニ依リ絶エズ上下シナガラ、而カモ常ニ之ガ生産費ヲ以テ——其生産費ハ次第ニ增加スルノ傾向アレドモ——其變動ノ中心ト爲サザルヲ得ザルモノナルガ爲メデアル。之ヲ要スルニ、其大體ノ傾向ヨリ言ヘバ、普通勞働者ノ提供スル勞力ノ價格ハ、略ボ之ガ生産費ニ相當スル點ニ定マリ、從ツテ原則トシテハ其價格ノ中ニ利子ヲ包含セザルモノト看做スコトヲ得ル。

之ニ依ツテ見レバ、一般勞働者ハ勞力ト云フ自己ノ商品ヲ賣ル時ハ、之ヲ生産費相當ノ價格ニ

テ賣リ、之ニ反シ、自己ノ生活ニ必要ナル諸種ノ財ヲ買フ時ハ、之ヲ生產費以上ノ價格ニテ買ヒツツアルモノナルガ、企業者ハ正ニ其逆ニシテ、卽チ彼等ハ、一般勞働者ノ生產物タル商品ヲ買フ時ハ、之ヲ其生產費相當ノ價格ニテ買ヒ、自己ノ生產物タル各種ノ商品ヲ賣ル時ハ、之ヲ其生產費以上ノ價格ニテ賣リツツアルモノデアル。而シテ現時ノ經濟組織ノ下ニ於テ、凡テノ企業者ガ其放下シツツアル資本ニ對シ、常ニ一定ノ利子ヲ生ゼシメ得ル所以ノモノハ、畢竟スルニ、彼等ガ此ノ如キ二樣ノ賣買ニ依リテ、凡テノ企業ニ生產費以上ノ一定ノ差益ヲ生ゼシムルガ爲メニ外ナラヌ。吾人ハ實ニ此ノ如クニ見ル。而カモ論ジテ茲ニ來ル時、計ラザリキ、吾人ハ、カノまるくすガ剩餘價値發生ノ原因ヲ說明シテ、資本家ニヨル勞働者ノ掠奪ニ在リト爲セシコトノ、必ズシモ虛誕ノ說ニ非ザルヲ信ゼザラントスルモ得ザルニ到リシコトヲ。（まるくす誕生後滿百年目ノ六月初旬之ヲ脫稿ス）